



信州F・POWERプロジェクト推進強化を

一般質問



「自然の中で伸び伸びと子育てをしたい」という若い世代を中心に、移住先として長野県を選ぶ方が増えていると聞いています。

【阿部知事】 ゼロカーボン社会を実現していく上では森林、木材の有効活用が重要な役割を持つ。

その魅力ある長野県の自然環境が持続可能で有り続けるために、SDGsにも深く関連するこの問題を、塩尻市で稼働している信州F・POWERプロジェクト推進の視点から、初議会である6月定例会で林務部長と阿部知事に質問しました。

信州F・POWERプロジェクトは、林業の再生とともに地域経済の発展や脱炭素社会の実現に資する取り組みとしてスタートしている。本県の林業、木材産業の活性化に繋がるものとして取り組んでいる。

〜森林県から持続可能な林業県へ〜
木質バイオマスの今後

【丸山】 県はゼロカーボン達成に取り組んでいるが「木質バイオマス」は重要な位置づけである。

今後の展開と林業県を目指す決意を伺いたい。

〜燃料となる原木の安定供給について〜

【丸山】 現在、県内には木質バイオマス発電所が5か所あるが、燃料となる原木確保の現状と今後の取り組みはどうか。

【須藤林務部長】 県はこれまでも原木の安定供給に向け、需給調整会議で毎月調整を行うとともに高性能林業機械の導入や作業道の路網整備支援等を行ってきた。素材生産量自体は10年で1.7倍になってはいるが、ウッドショックや他の用途との競合もあり、必ずしも十分ではないことを認識している。今後、間伐から主伐・造林への転換をさらに進めるための補助制度の創設や従来、伐採時に搬出できなかった林地残材を木質バイオマス施設へ供給する事業を創設する。

また、林業人材確保に係る予算を倍増して安定供給への取り組みを強化していく。



県民文化健康福祉常任委員会で質問しました



連絡会議を開催して活用を呼びかけている。

【要望】 日本では、男性の取得率の低さと、家事・育児時間の短さが問題になっている。ワークライフバランスを取り入れた仕事のシェアと効率で、さらなる推進を図ってほしい。



健康福祉部
(障がい者支援課)

工賃アップの強化を

県民文化部
(次世代サポート課)

パ・育児休の取得推進を

【丸山】 令和4年10月からパ・育児休が制度化された。民間に先駆けて県職員の取り組みも必要だが取得率はどうか。

【課長】 令和4年度は、対象者に対し37%の取得率だった。

【丸山】 取得率向上に向け、企業や県内自治体への働きかけの状況はどうか。

【課長】 「子育て応援宣言」企業の登録をはじめ、合同セミナーで制度や好事例のケースを学ぶ機会を設けている。国の少子化対策関係の交付金に対象事業が含まれており、県は

さらなる障がいの特性も加味した取り組みを推進してほしい。



【要望】 工賃アップのセミナーや専門家派遣を活かすと共に、

健康福祉部(介護支援課)

困りごとを手をさぐらせる地域づくりを

【丸山】 「高齢者生活介護の実態調査等(概要)」から説明をうけた。認知症の入り口にいる人を的確な時期に(早期に)診断や医療に繋げるための取り組みと、地域で支えるしくみが必要である。現状はどうか。

【課長】 認知症疾患医療センターが、10圏域に有り対応している。地域で支える観点からは、これから市町村で取り組む「チームオレンジ」が有るが、認知症サポーターを中心に関係者と共に推進していく。今回の調査を反映して、第9期の高齢者プランを策定していく。

扉を開けて

6月定例会では緊張の中、初めての一般質問、委員会審査を無事終えることができました。委員会の現地調査は、県内4つのエリアに出向きますが、中信エリアについては、所属以外の委員会の調査も参加可能で、数多くの県施設を訪れ、説明を聞くことができました。親しみやすく、わかりやすい県政を発信してまいります。



会派13人でスタート

県政改革！新たな信州を！



- 続木幹夫(政策審議会長)
- 林 和明(副広報企画委員長)
- 花岡賢一(幹事長)
- 竹村直子(副政務調査会長)
- 佐藤千枝(副政務調査会長)
- 荒井武志(代表代行)
- 中川博司(政務調査会長)
- 小林東一郎(代表)
- 望月義寿(広報企画委員長)
- 高島陽子(副代表)
- 丸山寿子(副政務調査会長)
- 埋橋茂人(財務委員長)
- 小林陽子(副政務調査会長)

()内は会派後職

5月臨時会

改選後初めての議会である5月臨時会が5月9日から11日まで開かれ、議長・副議長の選挙、議会運営委員会及び各常任委員会の委員・正副委員長の選任が行われました。我が会派の埋橋財務委員長が指名推薦により副議長に選ばれました。

常任委員会等構成 (○委員長 ○副委員長)

総務企画警察	小林 東一郎	荒井 武志
県民文化健康福祉	○続木 幹夫	丸山 寿子
産業観光企業	高島 陽子	林 和明
農政林務	望月 義寿	小林 陽子
危機管理建設	中川 博司	○佐藤 千枝
環境文教	花岡 賢一	竹村 直子
議会運営	中川 博司	花岡 賢一 ○望月 義寿
決算特別	小林 東一郎	○高島 陽子 丸山 寿子

代表挨拶



会派代表 小林東一郎

本年4月の県議会議員選挙において新たに当選した5名の議員も含め、計13名で会派「改革信州」を結成しました。県

6月定例会 新人議員5名も 県政課題に挑む

6月定例会県議会は6月22日に開会、211億円の補正予算などを可決し7月7日に閉会しました。

一般質問には36名が立ち、我が会派からは新人5名を含む9名が質問を行い、選挙で訴えた県政課題を中心に論戦を挑みました。

議会会派で最多の5名の女性議員が所属するなど、多様な経歴を持つ議員が県民の皆様の様々な御意見を県政に届けることで、これからあるべき信州を創り上げるために力を合わせて行動してまいります。

また、地方自治の二元代表制の趣旨を踏まえ、知事に対して「是非々々」の姿勢を貫き、チェック機能を果たすとともに、積極的に政策提言を行いますので、忌憚のない御意見・御要望をいただきますようお願い申し上げます。

難民意見書案が否決

6月定例会に我が会派から3本の意見書案を提出しました。「地方財政の充実・強化を求める意見書」と「義務教育の一層の充実を求める意見書」は全会一致で可決されましたが、「難民認定制度において独立した第三者機関の設立を求める意見書」は、続木幹夫政策審議会議長の提案説明を行い他会派の賛同を求めましたが、賛成少数で否決されました。

埋橋財務委員長が副議長に就任



5月臨時会で、我が会派の埋橋財務委員長が副議長選挙に立候補

し、対立候補が無かったことから、指名推薦により第101代副議長に就任しました。

埋橋財務委員長は、選挙に先立ち行われた所信表明会で、「議長の補佐をしながら、公平公正な議会運営を図り、闊達で真摯な議論が行われるよ

う努める。広報委員長として、広報紙に加えて、様々なSNSの媒体を活用した情報発信の充実を図る」と力強く決意を述べました。

議会改革では、決算特別委員会の充実、議会の調査能力の向上、議案や意見書への議員毎の賛否の公表などの改革に取り組みたいとも訴えました。

議長申し入れ

5月臨時会で就任した佐々木祥二議長に対し我が会派は、議会改革を中心とする「当面する議会運営に関する提言」の申し入れを6月7日に行いました。提言した6項目の内容は次のとおりです。

- ①災害や新型感染症等迅速な対応が求められる社会情勢に鑑み通年議会を導入すること、議会議長を着実に推進するため正副議長の任期を2年とする
- ②全議員が決算審査に関わる仕組みづくり、③議会専門スタッフの雇用や専門家(医師・法律家・技術者等)からの公聴会の実施、④議員定数や選挙区の見直し、飛び地の解消等を検討する
- ⑤意見書等の決議状況や結果について議事録を残すこと、⑥特別職の職員の給与に関する条例の変更を研究すること。

9月定例会日程(予定)

- ▽9月21日 開会
- ▽26日、29日 一般質問
- ▽10月2日、5日 委員会審議
- ▽6日 閉会

